



平成27年度企画展

宮代町 60年のあゆみ



期間 平成27年7月18日(土)

平成27年10月25日(日)

休館日 7月21・27日

8月3・10・17・24・31日

9月7・14・24・25・28・29・30日

10月1・2・5・13・19日



宮代町郷土資料館

345-0817

埼玉県南埼玉郡宮代町字西原 289

TEL 0480-34-8882 FAX0480-32-5601

開催にあたって

宮代町は、昭和 30 年 7 月 20 日に百間村と須賀村が合併し誕生しました。そして、今年、町制施行 60 周年を迎えます。60 年の間には多くのことがありました。昭和 33 年には百間小学校川島分校が独立し東小学校になりました。昭和 35 年には字西原の旧百間村役場から中央 3 丁目に新庁舎を建築し移転しました。昭和 40 年代には和戸公民館を始めとする公民館の整備、昭和 50 年代にはコミュニティーセンター進修館や笠原小学校、前原中学校の建設、平成の時代に入ると、図書館や総合体育館、郷土資料館、新しい村、はらっパーク、六花などが整備されました。また、その間には彩の国まごころ国体の開催や春日部市・杉戸町・庄和町との合併協議、道仏土地区画整理事業の実施などもありました。平成 17 年にはコミュニティー広場に木造 2 階建ての新庁舎が完成しました。また、平成 27 年には東武動物公園駅西口ロータリーも整備されました。

今回の展示では、宮代町が 60 年かけて歩んできた道を紹介しています。また、明治時代以降の合併前の百間村、須賀村についてもスポットをあて展示しています。是非、この機会に宮代町の近代の歴史をご覧ください。

平成 27 年 7 月 18 日
宮代町郷土資料館

凡例

1. 本書は平成 27 年 7 月 18 日から 10 月 25 日にかけて開催する宮代町郷土資料館企画展「宮代町 60 年のあゆみ」の展示図録です。
2. 図版の順序は展示順序を示すものではなく、図録構成も展示構成とは異なります。
3. 本展示会の企画及び執筆・編集は河井伸一が担当しました。展示は資料館職員等が協力して行いました。
4. 資料提供・協力者等（順不同・敬称略）

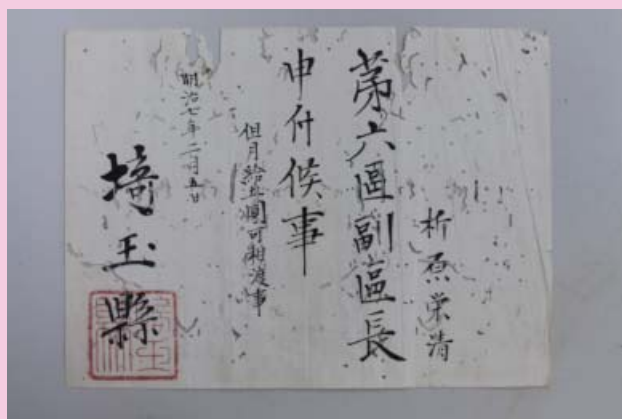
東小学校、折原静佑、小島明良、島村正次、渡辺重義、渡辺文雄、青木秀雄、吉岡勇一郎、渋谷康、成田きみ子

明治時代初期の宮代町域

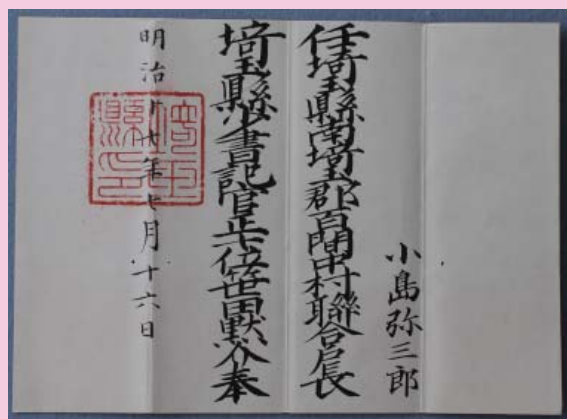
明治時代初頭、宮代町域には34カ村の村や新田がありました。明治8年（1875）には新田を本村が吸収し、百間村域に7カ村、須賀村域に5カ村が成立しました。

百間村域に成立した村は百間村（字山崎・百間1～6丁目など）、百間東村（字東・字川端・川端1～4丁目、字宮東など）、百間中村（字中など）、百間中島村（字道仏・字中島など）、百間西原組（字西原・字山崎・字姫宮・字宮東など）、百間金谷原組（字金原・字逆井など）、蓮谷村（本田3丁目など）です。須賀村域に成立した村は須賀村、東条原村、西条原村、国納村、和戸村です。

宮代町域の村は、浦和県や佐倉県、小菅県にそれぞれ属していましたが、明治4年11月14日には埼玉県に属しました。この時は大区小区制でしたので、和戸村、国納村を除く宮代町域の村は杉戸宿や下高野村、高岩村などと共に第6区に、和戸村と国納村は幸手宿、上高野村と共に第7区に属しました。その後、明治11年には郡区町村編成法により大区小区制は廃止され、郡制が復活し、町域の村は全て南埼玉郡に属しました。明治17年には百間村や百間東村などの7ヶ村は百間中村連合戸長役場を、須賀村や和戸村などの5ヶ村は東条原村連合戸長役場を設立しました。



第6区副区長辞令（折原家文書）



百間中村連合戸長辞令（小島家文書）



南埼玉郡役所と郡会議事堂（旧岩槻市役所跡）



百間中村連合戸長小島弥三郎印鑑（小島家文書）



埼玉県区別図（渡辺家文書）

南埼玉郡が置かれる前は、区が置られました。区は旧埼玉県内を24区に分けていました。百間村や須賀村、杉戸宿は第6区に属しました。第6区の区務所は現在の中央三井信託銀行杉戸支店です。南埼玉郡の郡役所は岩槻町に置られました。



埼玉県郡別図（渡辺家文書）

宮代町の村と新田の変遷図

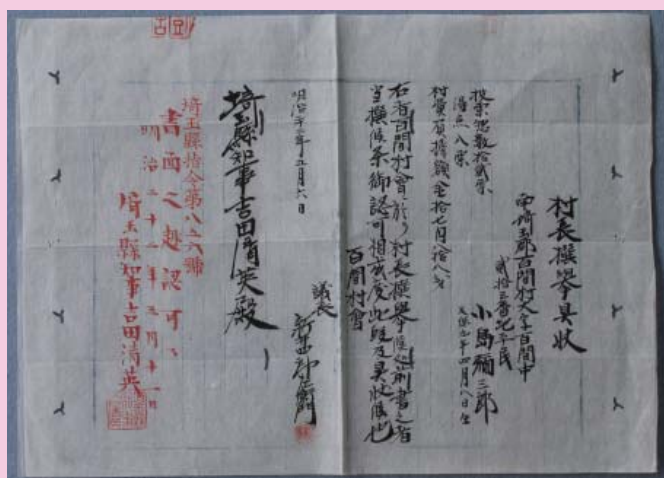
	明治2年	明治8年	明治12年	明治17年	明治22年	昭和30年
1	百間村	百間村	百間六ヶ村戸長役場	百間中村連合戸長役場	百間村	宮代町
2	逆井百間村新田					
3	午高入百間村新田					
4	百間四ヶ村請新田					
5	百間西原下組	百間西原組				
6	百間西原上組					
7	笠原沼百間西原組新田					
8	下ノ谷百間西原組新田					
9	午高入百間西原組新田	百間金谷原組				
10	百間金谷原組					
11	下ノ谷百間金谷原組新田					
12	百間中村					
13	笠原沼百間西村新田					
14	下ノ谷百間西村新田					
15	百間中村清九郎請新田					
16	百間中島村	百間中島村				
17	逆井百間中島村新田					
18	笠原沼百間中島村新田					
19	蓮谷村					
20	逆井蓮谷村新田					
21	笠原沼蓮谷村新田					
22	百間東村	百間東村	百間東村			
23	笠原沼百間東村新田					
24	下ノ谷百間東村新田					
25	須賀村	須賀村	須賀村	東条原村連合戸長役場	須賀村	
26	笠原沼須賀村新田					
27	笠原沼下野田村新田須賀村請					
28	辰高入須賀村新田					
29	東条原村	東条原村	東条原村			
30	笠原沼久米原村新田					
31	西条原村					
32	国納村	国納村				
33	和戸村		和戸村			
34	和戸村新田					

百間村・須賀村の成立

明治 22 年（1889）、「明治の大合併」ともいわれる市町村合併が、日本各地で行われました。これは、小学校を運営できる規模の町村を成立させることが目的で、全国一律に実施されました。宮代町域でも合併が行われ、百間村と須賀村が誕生しました。百間村の初代村長は字中の小島弥三郎で須賀村の初代村長は大字国納の日下部泰助です。

明治 32 年の東武伊勢崎線の開通に伴い、杉戸駅（現在の東武動物公園駅）や和戸駅が開設されると、駅を中心に市街地が形成されました。昭和 2 年には姫宮駅も開設されました。

災害としては明治 43 年の大水、大正 12 年（1923）の関東大震災、昭和 22 年（1947）のカスリーン台風などがあります。関東大震災では須賀村内で 1 名の犠牲者が、カスリーン台風でも百間村内で 1 名の犠牲者が出ました。



百間村長当選具状（小島家文書）

明治 22 年 5 月 6 日、百間村会において村長選挙を行った結果、投票数 12 票の内 8 票を取り小島弥三郎が初代百間村長となりました。



百間村役場（昭和 20 年代）



百間村長印鑑（小島家文書）



杉戸駅 明治時代（杉戸町教育委員会）



須賀村役場（昭和 30 年）

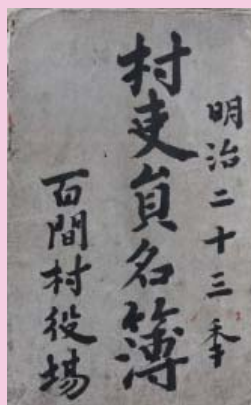
宮代町の誕生

昭和 28 年（1953）に町村合併促進法が施行され、新制中学校が運営できる規模の市町村を成立させることが目的で、全国一律に市町村合併が進められました。この合併を「昭和の大合併」と呼びます。

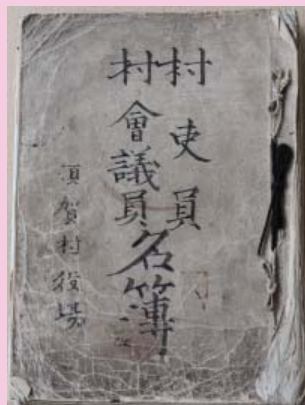
昭和 29 年 2 月に市町村合併の埼玉県試案が示されました。この時、百間村と須賀村は杉戸町や高野村と共に 1 町 6 カ村で合併するはずでしたが、百間村は 8 月から 9 月にかけて須賀村との 2 村合併や単独自立を表明するなど、大きな動きがありました。また、古川区（杉戸駅東口の現在の百間 1 ～ 6 丁目）の住民からは杉戸町を含めた 1 町 6 カ村合併を求める動きもありました。

こうした状況の中、昭和 29 年 11 月、百間村と須賀村は合併協議会を発足させ、昭和 30 年 7 月 20 日、百間村と須賀村の 2 村合併により宮代町が誕生しました。当時の人口は 10,744 人、世帯数は 1887 戸、総戸数の 40%が専業農家という状況でした。町名である「宮代」は、百間村の総鎮守である姫宮神社の「宮」と、須賀村の鎮守である身代神社の「代」をとって名付けられました。

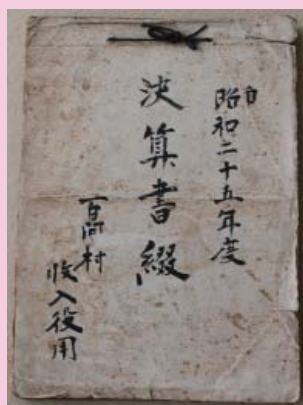
合併当時は旧百間村役場に宮代町役場が置かれ、旧須賀村役場は須賀支所となりました。昭和 35 年には鉄筋コンクリート 2 階建ての新庁舎（現在の進修館四季の丘）が完成しました。



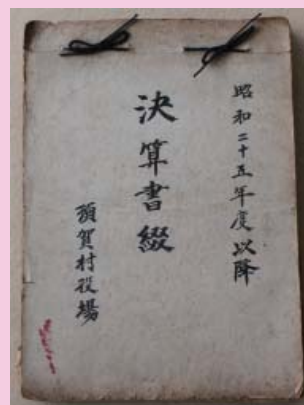
百間村吏員名簿



須賀村吏員村会議員名簿



百間村決算書



須賀村決算書



須賀村役場発行の町村合併資料の表紙には近隣町村が記されています。上側には江面、久喜、太田、右側には高野、左側には百間、杉戸とあります。昭和 29 年 5 月 25 日段階ではこれらの町村が合併の候補だったのでしょうか。

須賀村町村合併資料
(島村家文書)

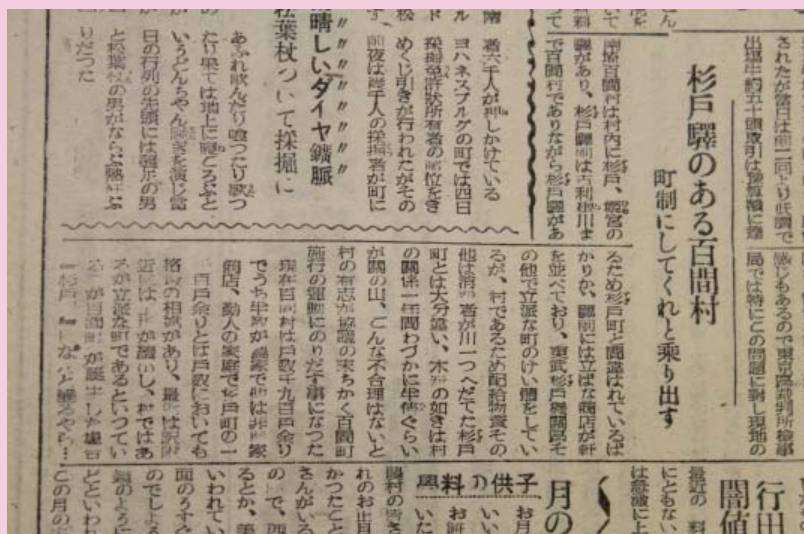
百間村と須賀村の決算書は昭和 25 年度から 30 年度、宮代町の決算書は昭和 30 年度から現在に至るまで残されています。宮代町の収入額や支出額、財政規模が分かる非常に貴重な資料です。百間村と須賀村の職員録です。職員や議員だけでなく、学校の教員等も分かります。



旧百間中学校（旧青年学校校舎） 昭和 25 年



1 町 6 ケ村合併促進趣意書（折原家文書）



カスリーン台風時の赤松浅間社付近 昭和 22 年

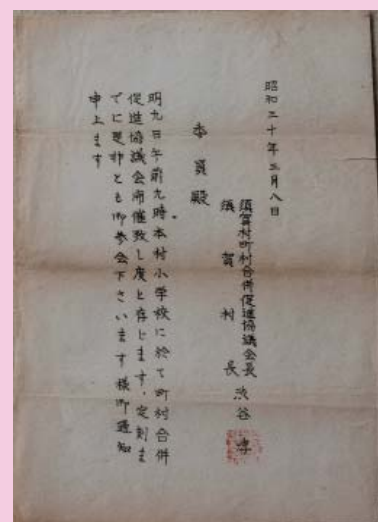


須賀村町村合併促進協議会委員
名簿（島村家文書）

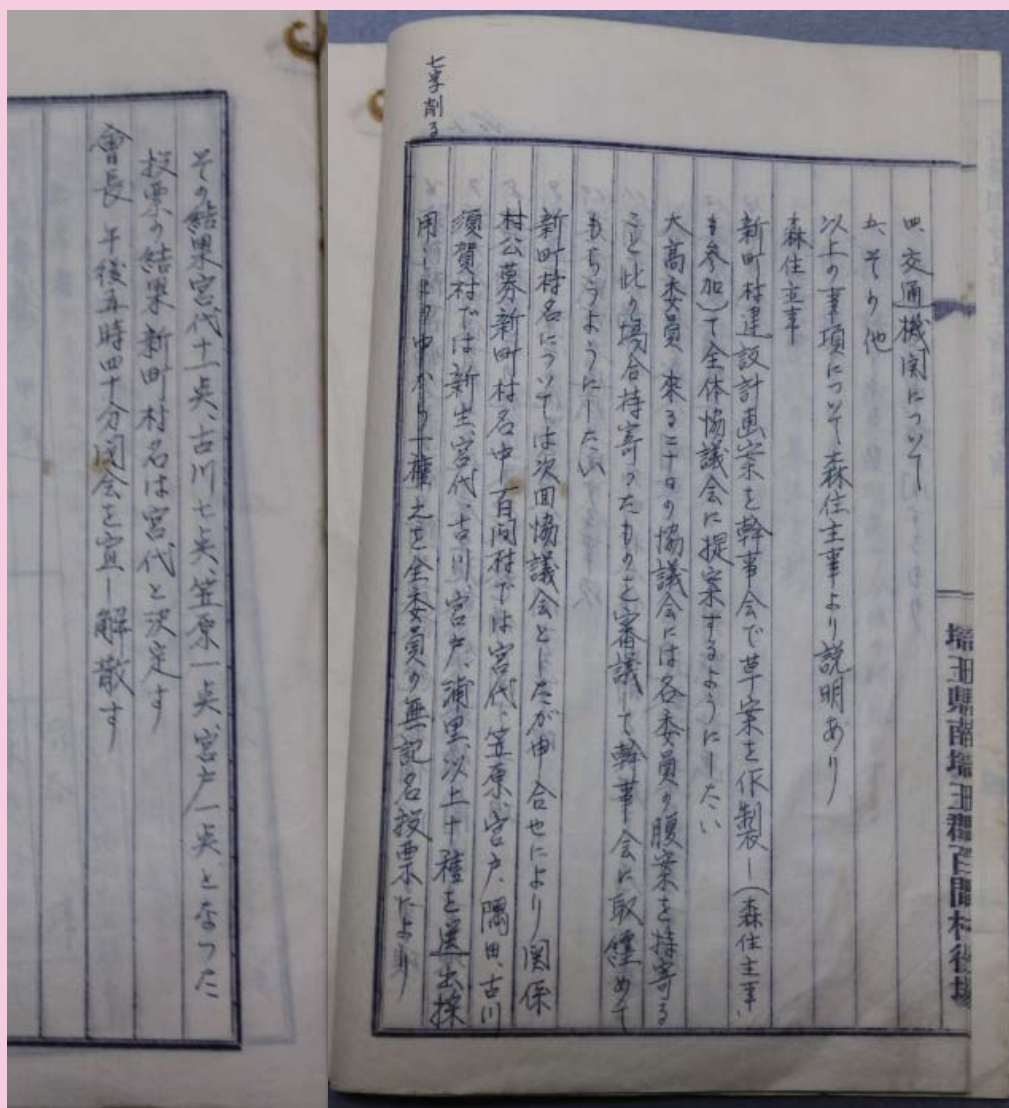
古川区（杉戸駅東口の現在の百間 1 ～ 6 丁目）の住民は百間・須賀の 2 ケ村合併ではなく、杉戸町を含めた 1 町 6 カ村合併を求めています。

百間村は 1 町 6 ケ村の中で、杉戸町に次いで大きな村でした。また、杉戸駅東口は事実上、杉戸町から続く町場となっていました。そのため、昭和 22 年 2 月には百間町制に乗り出す動きもあったようです。

昭和 22 年 2 月 8 日付
埼玉新聞



須賀村町村合併促進協議会
開催通知（島村家文書）

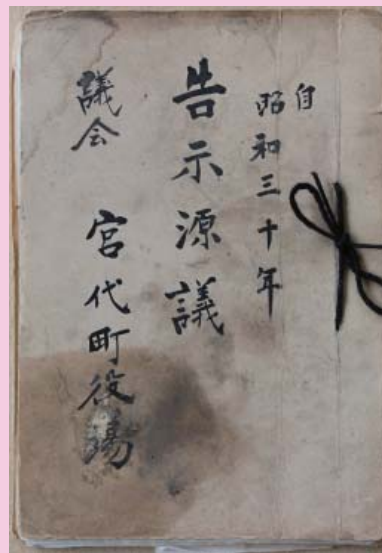
[illegible]

新町合併協議会 内容

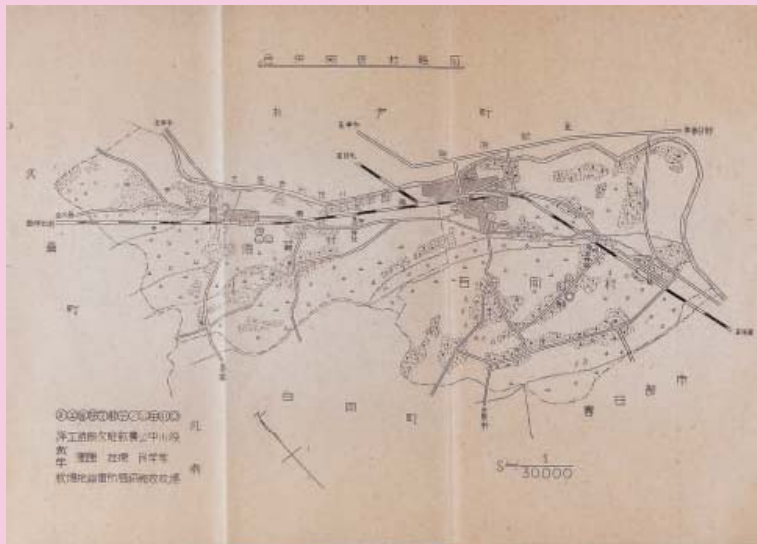
ここには、「新町名については次回協議会としたが申合せにより関係村公募新町村名中、百間村では宮代、笠原、宮戸、隅田、古川、須賀村では新生、宮代、古川、宮戸、浦里以上 10 種を選出採用し、之を全委員の無記名投票により、その結果、宮代 11 点、古川 7 点、笠原 1 点、宮戸 1 点となった。投票の結果、新町村名は宮代と決定す。」とあります。



新町合併協議会 表紙



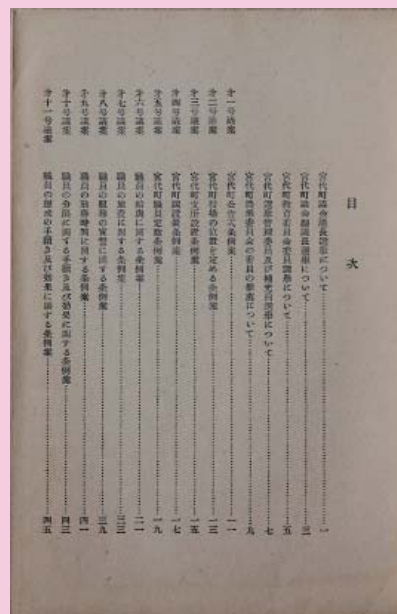
告示源議 宮代町役場



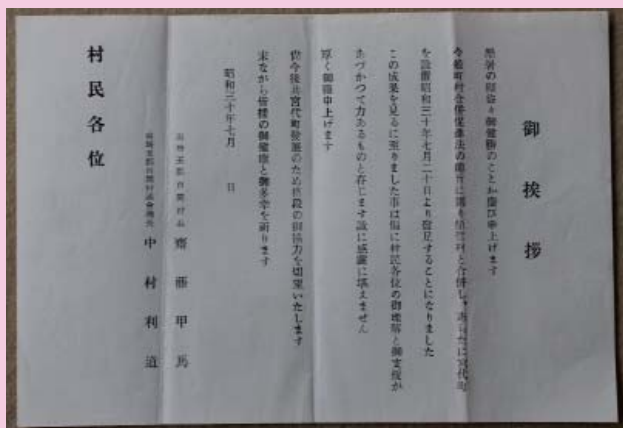
宮代町新町建設計画 (吉岡家文書)



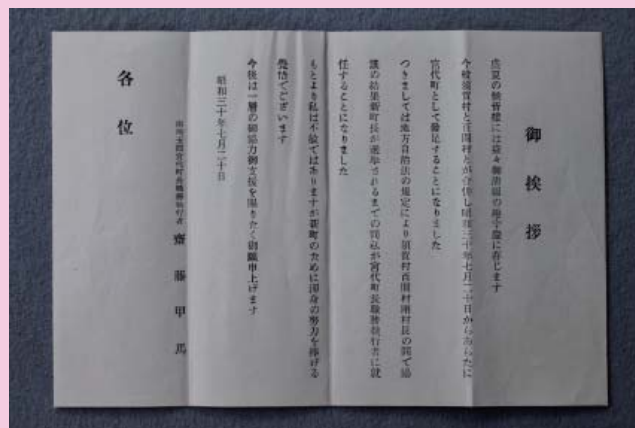
宮代町町議会第1回臨時会議案



告示源議の宮代町告示第1号には新しい宮代町の条例が制定するまで、それぞれの村域の条例を宮代町の条例としてみなすと書かれています。宮代町初の町議会は、昭和30年7月20日の午前8時に告示第2号で召集されました。初めての町議会は百間中学校で開催されました。



宮代町発足挨拶状（百間村長 折原家文書）



宮代町発足挨拶状（宮代町長 折原家文書）



百間中学校（昭和 28 年）

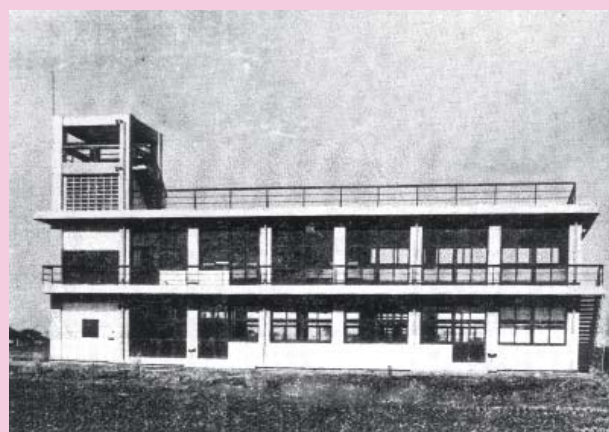
百間中学校は昭和 26 年 11 月 23 日に新校舎が完成しました。第 1 回宮代町議会は百間中学校で開催されました。



宮代町合併記念杯



2 代目宮代町役場（昭和 38 年）



2 代目宮代町役場（昭和 35 年）



宮代郵便局完成（昭和 37 年）



百間小学校川島分校落成式（昭和 30 年）



昭和 30 年度宮代町事務財産表



百間小学校航空写真（昭和 20 年代）



杉戸駅前通り（昭和 37 年）



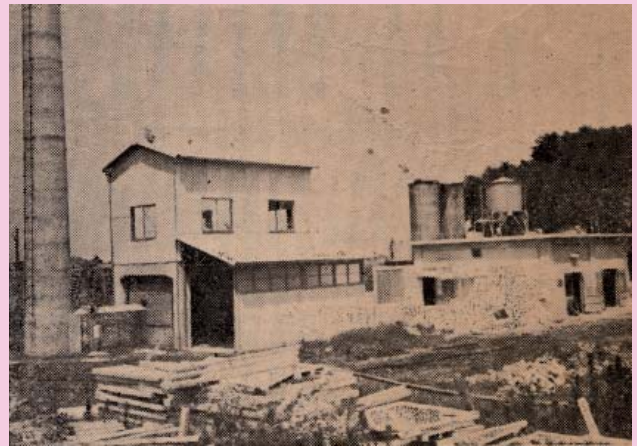
須賀小学校校舎落成（昭和 37 年）



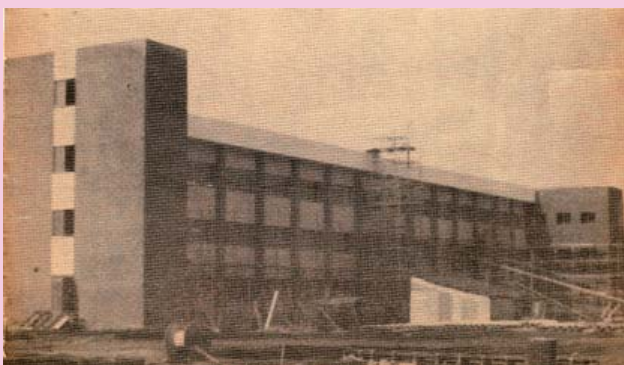
東小学校航空写真（昭和 30 年代）



須賀小・中学校航空写真（昭和 30 年代）



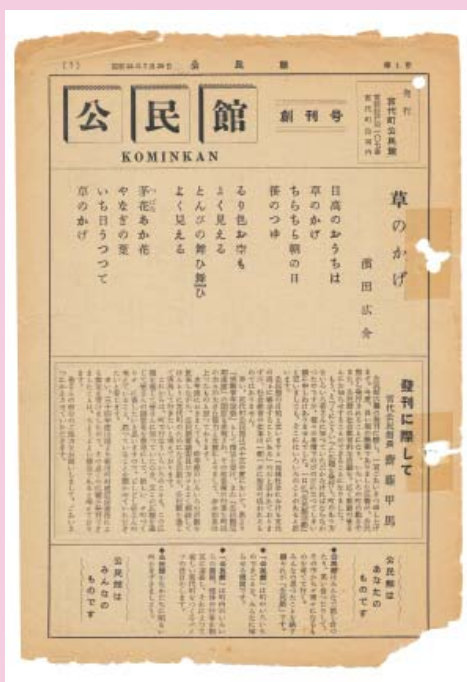
久喜宮代衛生組合焼却施設完成（昭和 38 年）



日本工業大学開校（昭和 42 年）



第 1 回町民マラソン大会（昭和 38 年）



広報公民館（昭和 34 年）



広報みやしろ（昭和 36 年）

広報みやしろは昭和 34 年 7 月に広報公民館として創刊されました。その後、昭和 36 年 7 月の第 5 号から広報みやしろに変更となりました。第 5 号の編集後記には「公民館では題名がかたすぎはしないかという声を前々から聞いていましたので、いろいろ考えた末今度表題のように広報みやしろとかえてみました。」とあります。



杉戸駅西口開通式（昭和 48 年）



杉戸駅東口商店街（昭和 50 年代）



宮代町役場周辺の市街地（昭和 50 年代）



杉戸駅東口と東武バス（昭和 50 年代）



都市化する宮代

合併当時は純農村であった宮代町も、杉戸駅・和戸駅・姫宮駅を中心にして急速に宅地化が進みました。昭和 46 年（1971）に宮代台団地が、昭和 50 年に学園台団地が、昭和 52 ～ 53 年に姫宮団地が相次いで分譲されるとともに周辺での住宅開発が行われ人口も増えていきました。しかし、まだ緑豊かな自然も残っており、農村地帯から住宅都市へと変化しつつある時代といえます。昭和 40 年から昭和 50 年の 10 年間で、人口が約 1.6 倍に、昭和 60 年までの 20 年間で、人口が約 2.3 倍に増加しました。

居住環境の整備がすすめられ、人口の増加とともに保育園や公民館、小中学校の校舎や体育館、プールなどが新設されました。住民主体の大きなイベントとして現在もなお続いている、町民体育祭（昭和 48 年）、町民文化祭（昭和 54 年）、町民まつり（昭和 59 年）が始められたのもこの時期でした。

昭和 55 年 6 月、町制施行 25 周年の年には、宮代町のシンボルでもあるコミュニティセンター進修館がオープン、その翌年には、東武動物公園がオープンし、あわせて駅の名前も杉戸駅から東武動物公園駅に変わり、地下鉄が直通で乗り入れるようになるなど、利便性が向上しました。

昭和 57 年 2 月、町章と町旗が決まりました。町章は、みやしろの「み」の字を伸び行く新芽のイメージとして図案化されたもので、町旗の色は町の特産品である巨峰の色をイメージしたものでした。

昭和 60 年には町制施行 30 周年をむかえました。さまざまな記念事業がおこなわれるなか、「宮代の歌」や「宮代音頭」、町民憲章、町の花「ハクモクレン」町の木「シイガシ」が制定されました。



町制施行 30 周年で作成された宮代音頭



町制施行 25 周年でつくられたコミュニティセンター進修館（昭和 55 年）



昭和 56 年に開校した笠原小学校



第 1 回町民体育祭 於日本工業大学（昭和 48 年）



第 3 回町民文化祭（昭和 56 年）



第 1 回町民まつり（昭和 59 年）



昭和 46 年に造成された宮代台団地



昭和 54 年に改築した和戸公民館



昭和 56 年に橋上化した東武動物公園駅



昭和 56 年に開園した東武動物公園



宮代町の新たな時代へ

平成 5 年（1993）には郷土資料館、平成 6 年には図書館、総合体育館、平成 7 年には総合体育館室内プール、平成 13 年にははらっパーク宮代、新しい村、平成 15 年には公設宮代福祉医療センター六花が順次オープンしました。町内で必要とされる各種の施設の設置は、ほぼ完了となりました。

町制施行 50 周年の節目を目前とした平成 17 年 2 月、埼玉県産木材を活用した木造 2 階建の新庁舎がオープンしました。この新庁舎は、太陽光を利用した発電設備や雨水貯留施設を有するなど環境配慮も念頭において建設されており、これからの町づくりへの姿勢を表しています。平成 16 年には彩の国まごころ国体が、平成 20 年には高校総体が開催され、はらっパーク宮代でアーチェリー競技会が行われました。また、平成 20 年には旧町役場跡に進修館四季の丘がオープン、平成 27 年には東武動物公園西口駅前広場が整備されました。



平成 5 年に開館した郷土資料館



平成 6 年に開館した図書館



平成 6 年に開館した総合体育館



コミュニティセンター進修館と四季の丘（平成 20 年）



平成 13 年に開園した新しい村



平成 6 年に巨峰市開始



平成 11 年に改築した国納保育園



平成 15 年に開院した公設医療センター六花



平成 13 年に開設されたはらっパーク宮代



公衆トイレ四季楽開設記念式典（平成 8 年）



平成 13 年に橋上化した姫宮駅



彩の国まごころ国体（平成 16 年）

春日部市・宮代町・杉戸町・庄和町の 合併の是非を問う住民投票

宮代町の開票結果

賛成 7,666 反対 11,035

	春日部市	宮代町	杉戸町	庄和町
賛 成	55,880	7,666	12,809	12,623
反 対	32,227	11,035	9,800	5,794
投票率	53.93%	66.76%	59.92%	60.48%
有効投票	88,107	18,701	22,609	18,417
無効投票	2,090	243	406	327
不受理・持帰り	3	0	0	0



左から、石原和利市長、朝原宮内町長、三輪春日部町長、小川杉戸町長

そして 新たな一歩を

七日十七日の春日部市、宮代町、杉戸町、庄和町が合併することの是非を問う住民投票で、当初においては反対が賛成を上回る結果となりました。合併問題は、町民の皆様の暮らし、町の将来に関わる重要な課題でありますことから、平成十二年以来、町民の皆様の声をお聞きながら、また確認しながら町民総参加で検討を進めてまいりました。

この結果を通じて、町民の皆様は、「民町の良で、また、解決すべき課題を広い視野から検討する意義があらたに」と考えられています。

合併は、三年か、一週三町の合併に向けて努力してきた者としては残念であります。しかし、高い投票率の中で町の民の皆様の三票と一つで、東上りへのたいと存じます。反対の理由については、多くの町民の皆様が「今の宮代町を残したい」という思いを固く、一歩ずつ、身のあたった行政改善を追求されるものと認識しております。

今後の町政改善が重要になってまいります。なお、厳しい財政状況が必ずやもたらまれます。私といたしましては、町議会をはじめ町民の皆様と一丸となりまして、これまで以上に大胆な発想の転換、積極果敢な行政改善の進捗により、合併化時代にあふれしまま、つくり出す道を、進めたいと存じます。

宮代町長 磯原一雄

平成16年 7月6日 月曜日

春日部など
1市3町

合併が白紙に

住民投票「反対」の宮代、町長が「単独宣言」

【春日部市】宮代町長が、合併協議会がまとめた合併案について、住民投票の結果が「反対」になった場合、単独で市制を施行する意向を示した。合併協議会がまとめた合併案は、春日部市、春日部市、春日部市、春日部市の4市町村の合併による合併案で、合併後の市名は「春日部市」になる。宮代町長は、合併協議会の決定を尊重する意向を示しているが、合併案が住民投票で反対になった場合、単独で市制を施行する意向を示した。

宮代町長は、合併協議会の決定を尊重する意向を示しているが、合併案が住民投票で反対になった場合、単独で市制を施行する意向を示した。合併協議会の決定を尊重する意向を示しているが、合併案が住民投票で反対になった場合、単独で市制を施行する意向を示した。

責任者として残念
真剣に受けとめる
今後は議会と協議

春日部市、春日部市、春日部市、春日部市の4市町村の合併協議会の様子。春日部市、春日部市、春日部市、春日部市の4市町村の合併協議会の様子。春日部市、春日部市、春日部市、春日部市の4市町村の合併協議会の様子。

身丈に合った
町づくりを
全国的な文化町長表明

「ここまで差つくとは」
大宮に驚く議員保護者

春日部市、春日部市、春日部市、春日部市の4市町村の合併協議会の様子。春日部市、春日部市、春日部市、春日部市の4市町村の合併協議会の様子。春日部市、春日部市、春日部市、春日部市の4市町村の合併協議会の様子。

春日部市、春日部市、春日部市、春日部市の4市町村の合併協議会の様子。春日部市、春日部市、春日部市、春日部市の4市町村の合併協議会の様子。春日部市、春日部市、春日部市、春日部市の4市町村の合併協議会の様子。

春日部市など1市3町

	合併後(市)	合併前(市)	合併前(町)
春日部市	23,222	23,222	100.00
春日部市	7,988	7,988	100.00
春日部市	11,652	11,652	100.00
春日部市	3,570	3,570	100.00
春日部市	12,558	12,558	100.00

合併協議の頃、支所として設計が進んでいた
3代目宮代町役場

年号	西暦	月	出来事
明治元年	1868	10	
明治3年	1870		和戸橋河岸設置。
明治6年	1873	5	百間小学校、須賀小学校開校。
明治8年	1875	6	町内にあった34ヶ村が旧須賀村地区5ヶ村・旧百間村地区7ヶ村に統合・合併。
明治22年	1889	4	町内の村々が須賀村と百間村に統合・合併。
明治32年	1899	8	東武鉄道開通。杉戸駅開業。12月、和戸駅開業。
明治43年	1910	8	明治43年の大水。
大正12年	1923	9	関東大震災がおこる。
昭和2年	1927	9	姫宮駅開業。
昭和4年	1929	4	東武日光線開通。
昭和5年	1930	2	百間村の大字が廃止、字が設置される。
昭和8年	1933	3	清地橋開通。
		4	百間小学校川島分校新築落成。
昭和18年	1943	12	東武鉄道浅草線区杉戸支区が設置される。
昭和20年	1945	7	東武鉄道浅草線区杉戸支区が東武鉄道杉戸工場に改称。
昭和22年	1947	4	百間中学校、須賀中学校開校。
		9	カスリーン台風。
昭和26年	1951	11	百間中学校新校舎落成。旧青年学校校舎から移転。
昭和30年	1955	7	百間村と須賀村が合併し宮代町が誕生。初代町長に斎藤甲馬氏就任。
昭和33年	1958	4	百間小学校川島分校が東小学校として独立開校。
昭和34年	1959	7	広報みやしろの前身となった広報「公民館」創刊。
昭和35年	1960	8	役場新庁舎（鉄筋コンクリート2階建）完成。
昭和36年	1961	3	久喜宮代衛生組合を設立。
		5	上水道給水開始。給水申込者は約1500戸。
		7	広報の名称が「公民館」から現在の「みやしろ」にかわる。
昭和37年	1962	6	町役場前に新郵便局が開局。
昭和38年	1963	1	第1回新春マラソン大会。
		8	有線放送電話開通、加入戸数は約1200戸。通話料は1通話3円。
昭和39年	1964	3	老人65歳以上の健康診査実施。
昭和40年	1965	4	「住居表示に関する法律」にともなう新住居表示はじまる。交通指導員による交通安全指導はじまる。
昭和41年	1966	6	町内初の公民館である和戸公民館（当時は須賀公民館）完成。
		8	須賀小学校・百間中学校プール完成、プール開き行われる。
		9	学校プール完成を記念し東京オリンピック選手を招いて模範水泳大会開催、合わせて水泳教室開催。
昭和42年	1967	4	日本工業大学開校。
昭和44年	1969	4	初の町立保育園開園、約30人が入園。
		12	百間公民館完成。
昭和46年	1971	3	川端公民館・須賀公民館完成（旧須賀公民館、和戸公民館に改称）。
			宮代台団地造成。
昭和47年	1972	3	西条原公民館完成。
		9	須賀中学校全焼、プレハブ仮設校舎で授業。
		10	交通事故防止の一環としてスクールゾーン設けられる。
昭和48年	1973	1	第1回新春ロードレース大会を実施。
		3	和戸第二公民館完成。
		4	百間公民館内に図書室開設。
		5	須賀中学校新校舎完成。
		7	第二浄水場完成。
		9	杉戸駅西口開設。
		11	西原公民館完成。日本工業大学グラウンドにおいて第1回町民体育祭開催される。
昭和50年	1975		学園台団地造成。
昭和51年	1976	1	第1回年少者スキー教室を開催。
		9	西原グラウンド完成。
		11	国納保育園開園。
昭和52年	1977		姫宮南団地造成。
昭和53年	1978		姫宮北団地造成。
		12	姫宮駅踏切線橋開設。
昭和54年	1979	5	和戸公民館改築。
		11	第1回町民文化祭開催される。
昭和55年	1980	3	字中地内において前原遺跡発掘調査、貴重な資料を多数発見。
		2	町制施行25周年。町のシンボル、コミュニティセンター進修オープン。
昭和56年	1981	3	東武動物公園オープン。杉戸駅が東武動物公園駅に駅名変更、地下鉄直通電車乗り入れ。
		4	須賀小・東小の学区を分離し笠原小学校開校。
		5	町内一斉美化運動（クリーン宮代）始まる。宮代町第1次総合計画策定。
昭和57年	1982	2	町のシンボルマーク町章・町旗決まる。
		4	埼玉県立宮代高等学校開校。
		5	人口3万人を超える。
昭和58年	1983	4	前原中学校開校。
昭和59年	1984	4	防災行政無線放送開始。宮代町消防署発足。
		8	第1回みやしろ町民まつりが開催。

年号	西暦	月	出来事
昭和60年	1985	3	有線放送廃止される。
		4	保健センターオープン。
		7	町制施行30周年。「宮代の歌」と「宮代音頭」制定。
		11	町民憲章制定。まちの木「権榎」まちの花「白木蓮」制定。
昭和62年	1987	10	日本工業大学でミニSL国際大会。
昭和63年	1988	3	さいたま博覧会へ宮代町出展。
		10	高齢者事業団発足。清地橋架け替え完成。
		11	総合運動公園一部（多目的広場・ソフトボール場）供用開始。
平成元年	1989	4	埼玉県立宮代養護学校開設。
		9	宮東橋開通。
平成2年	1990	4	小学校で学校給食始まる。万願寺橋架け替え完成。商工会館完成。
		5	授産施設「ひまわりの家」開所。
		8	西原自然の森に「ふれ愛センター宮代」オープン。
		11	宮代勤労者体育センターオープン。第1回コレクションinみやしろ開催。
平成3年	1991	3	第2次宮代町総合計画策定。
		4	広域利根斎場「メモリアルトネ」業務開始。
		6	番屋橋架け替え完成。
平成4年	1992	10	資源ごみの分別収集を開始。
平成5年	1993	4	土曜閉庁スタート。公共下水道一部供用開始。中学校で学校給食始まる。
		9	特別養護老人ホームみどりの森においてディ・サービスを開始。
		11	西原自然の森に宮代町郷土資料館オープン。
平成6年	1994	1	宮代町立図書館オープン。
		9	巨峰市始まる。
		10	プラスチック類の分別収集を開始。
		11	地区別懇談会開始。
		12	「人権尊重平和都市」宣言。
平成7年	1995	4	特別養護老人ホームみどりの森に介護支援センターオープン。学童保育所開始。桜市始まる。
		5	町内循環バス運行始まる。
		7	町制施行40周年。
		10	宮代巨峰ワイン発売。
平成8年	1996	12	「核兵器廃絶平和都市」宣言・「生涯学習推進のまち」宣言。
		4	公衆トイレ「四季楽」が完成。全公共施設の耐震診断を実施。
平成9年	1997	4	消防が広域化。宮代町消防署が久喜地区消防組合に編入。
		7	町公式ホームページ「電脳みやしろ」開設。
平成10年	1998	2	『「農」のあるまちづくり基本計画』策定。
		10	健康マッパの一部（川端・宮東地区1.6km）が完成。
平成11年	1999	4	新国納保育園・子育て支援センター「げんきっ子」オープン。
平成12年	2000	4	山崎山が「トラスト保全対象地」に決定。
		5	アンテナショップ「結」オープン。
		6	笠原小学校内に「陽だまりサロン」「すだちの家」がオープン。
		12	第3次総合計画基本構想策定。
平成13年	2001	3	姫宮駅橋上化が完了。リニューアルオープン。
		4	金原地区に「はらっパーク宮代」がオープン。
		6	町民1200人を対象にIT講習会を実施。
		8	彩の国まごころ国体開催決定。
		9	山崎地区に「新しい村」がオープン。
平成14年	2002	4	宮代町公募制補助金制度がスタート。
平成15年	2003	3	ISO14001認証を取得（役場）。
		3	東武鉄道杉戸工場閉鎖。
		4	春日部市・宮代町・杉戸町・庄和町合併協議会が発足。
		5	彩の国まごころ国体リハーサル大会開催。
		10	「公設宮代福祉医療センター六花」がオープン（「みやしろ保育園」併設）。
平成16年	2004	4	「宮代町市民参加条例」が施行。
		7	春日部市・宮代町・杉戸町・庄和町の合併の是非を問う住民投票で、反対票が賛成票を上回る。
		10	彩の国まごころ国体アーチェリー競技会開催。
平成17年	2005	2	宮代町新庁舎オープン。
		4	公共改革市民検討委員会が発足。西条原で農業集落排水施設の供用開始。
		7	町制施行50周年。
平成19年	2007	4	勤労者体育センターが「いきがい活動センター」に改称。
平成20年	2008	7	「進修館四季の丘」オープン。
		7	全国高等学校総合体育大会アーチェリー競技開催。
		11	道仏地区アンダーバス「みやしろ地下道」開通。
平成23年	2011	4	都市計画税導入。
平成25年	2013	3	「いきがい活動センター」廃館。
		4	埼玉東部消防組合が発足。
平成26年	2014	5	東武動物公園駅「新西口」供用開始。
平成27年	2015	2	東武動物公園駅西口駅前広場開通式が行われる。
		5	「ふれ愛センター宮代」廃館。
		7	町制施行60周年。

